

盛徳寺と円澄

「市報ぎょうだ」8月号で紹介した盛徳寺の門前に、「天台宗総本山延暦寺第二代座主 円澄 生誕の地」と記された碑が建てられています。

円澄は、天台宗の開祖である最澄に次いで第二天台座主となった平安時代初期の僧です。鎌倉時代に撰せられた日本初の仏教通史である『元亨釈書』巻二によれば、円澄は宝亀2年(771)に武蔵国埼玉郡に生まれ、俗姓は壬生氏であったとのこと。

円澄は18歳で鑑真の高弟道忠から菩薩戒を授けられて出家し、「法鏡行者」と名乗りました。延暦17年(798)、27歳で比叡山に上って最澄の門下となり、「澄」の字を与えられて円澄と改名しています。大同元年(806)に最澄による最初の円頓戒授与で受戒者の上首となり、翌年の法華長講では最澄の次に第二巻を講説しています。弘仁3年(812)の冬には、泰範、光定らと高雄山寺におもむき、空海か



盛徳寺

ら灌頂を受けています。そして翌年再び高雄山寺に赴いて、空海から密教を学んでいます。最澄没後の天長10年(833)には、第二天台座主となり、比叡山に西塔院、寂光院を建立するなど、天台宗の発展に尽力しました。また、皇太后 橘 嘉智子に袈裟数百枚を中国天台山国清寺に施入することを勧め、これを実行させています。

円澄は、後継者として下野国(現在の栃木県)出身の円仁を育て、承和4年(837)10月26日に66歳で逝去しています。

このように平安時代初期の仏教史に大きな足跡を残した円澄ですが、その生誕の地が埼玉郡のどこであるのかは、残念ながら明らかではありません。若き日の円澄が現在の行田市域で活動していた可能性も想像されますが、盛徳寺との関係も含めて現時点では不明確な点が多く、今後の研究の進展で謎が解明されることを期待されます。

(文化財保護課 中島洋一)

こせに with フラベス 行く! ちゃんか 福祉施設編

みぬまえん 見沼園 (運営:社会福祉法人聖徳会)

今月紹介する見沼園は、昭和62年4月に開設された施設で、今は主に障がい者の方々が食事や入浴などのサポートを受けながら生活しているんだ。日中は、クリーニングといった軽作業の生産活動を行い、日常生活における能力の維持・向上を図っているんだって。また、「行田市ふれあい福祉健康まつり」や荒木公民館で開催される文化祭などに積極的に参加し、地域の方との交流を深めているよ。季節のイベントも充実していて、ホテルのパーティー会場でクリスマス会も行われているんだ。何だか楽しそう!

この施設では、短期入所サービスも行っているんだよ。市内で実施しているのはここを含めて2カ所だけ。そのため、利用を希望する方が大勢いるそうです。「利用者の立場にたったサービスを提供することで、これからも地域の福祉の充実に貢献していきたい」って職員の皆さんは話していました。

【住所】荒木1735 【電話番号】557-2873



このコーナーで紹介する施設を募集していますので、希望される場合は広報広聴課までご連絡ください。

今月の表紙

8月7日、消防署などで一日消防士体験が行われました。市内の小学生を対象にしたこの企画は、今年で22回目を迎えます。今回は46人が参加。普段ではできない貴重な体験とあって、子供たちは興味津々な様子で消防職員をサポートを受けながら、放水訓練や救助訓練などに取り組んでいました。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をCD-Rに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています